東　俣　野　6月号
東俣野小学校　学校だより　　平成２８年５月３１日

運動会を終えて

校長　　村田 幹男

大勢の皆様に見守られて、運動会を無事終えることができました。

ここ数年、運動会当日は真夏日となり、熱中症を心配する運動会となっていましたが、今回はそんな心配もなく、天気にも恵まれました。

子どもたちは、よくがんばったと思います。徒競走、団体演技・競技、係の仕事や応援合戦など、それぞれの場面で一人ひとりの子どもが一生懸命取り組む姿が見られました。みんなで協力したからこそできた集団の美しい動きも見られました。リレーなどでは、最後までどちらが勝つか分からない、きわどい勝負を見せてくれました。

私は練習の時からたびたび授業参観していましたので、練習を重ねるにつれ子どもたちが上手くなっていく様子がよく分かりました。と同時に、指導者（先生たち）の苦労や情熱も感じ取っていきました。

一回一回の練習に、すべての子が、前向きに、協力して取り組むことができれば理想的なのですが、実際はそううまくはいきません。気持ちが高揚して、全体的に私語が多く落ち着かないときもあるし、反対に気持ちが乗らないから話もろくに聞かず、だらだら動く。そんなときだってあります。今まで意欲的に練習してきたのに、ペアとトラブルになり、練習に参加しなくなる。そんなことも起こります。そのたびに指導者は、全体に向けて叱咤激励したり、個別に相談に乗ったりして、子どもに寄り添った指導・支援をしていました。そして放課後も遅くなるまで、指導者同士でその日の練習内容や指導方法を振り返り、次回の準備をすすめていました。

運動会は、同学年の仲間や異学年、先生たちとたくさんかかわって学ぶ場です。練習の場面は特に大切と考えます。自分や人を大切にし、まじめにがんばる心をここで少しでも育てたいと思っているので、指導者は声かけの言葉も工夫して支援にあたるのです。

毎年、どの学年も、演技や競技の出来映えは当日の本番が一番よくなります。家族の人たちが見てくれている、大勢の人たちから見られているという状況になると、子どもは「まじめな姿、がんばる姿」を最大限に発揮するようです。

「その気になればできる。なら練習のときからちゃんとやればいいのに。」指導者をやきもきさせた時間を思い出すと、正直そう言いたくもなりますが、そうは思ってもなかなかできないものなのでしょうかね。